わたしたちの町会・自治会

福生への玄関口

武蔵野町会　小林　尚司

「東京から福生への玄関口・武蔵野町会です」いつもこのような自己紹介をさせていただいております。最寄りの駅が拝島駅で、一番遠い会員でも徒歩10分程度だからです。町内の中程を国道16号線が南北に貫き、その16号に接続する都道睦橋通りが東西に走っています。

現在、16号、睦橋通りともに拡幅工事が行われていて、完成すると現在の倍の道幅（48ｍ）になる予定です。町会を通過する16号のほとんどが鉄道を越えるための武蔵野橋なので、途中にガードはあるものの睦橋通りとの交差点では徒歩での横断が非常に困難となっており、特に高齢者にとっては大変危険を伴うことが危惧されております。

このように、当町会を取り巻く環境は著しく変化しつつあり、町内の安全・安心を守るため、防災・防犯活動を含め、より一層努力していきたいと思っております。

当町会には、女性神輿会「美友会」があります。七夕神輿パレードでご覧の方も多いかと思われますが、町内夏祭りでも大いに盛り上げていただいております。

若い世代の町会加入が減少している近年、当町会でもこうした夏祭り、町会対抗ソフトボール大会等を機に若い世代に積極的に声掛けし、町会行事への参加、ひいては町会加入を促しております。先述の16号、睦橋通り拡幅により転出した会員も少なくありませんが、加入数もさることながら、より充実した町会を目指し、会員全員で邁進していきたいと思っています。

女性神輿会「美友会」

みんなで楽しく

福栄町会　沼崎　敬三

福栄町会は、ミレニアムパークが真ん中にある110世帯ほどの小さな町会です。特徴としては、福寿会、福栄福祉地区委員会の高齢者メンバーが元気に活躍しています。

今回は、「手打ちうどん作り」と「福栄福祉フェア」について紹介します。

「手打ちうどん作り」は、みんなで楽しく作業して親睦を深めたいと、５年前から始まりました。まず、粉に塩水を入れて練ります。皆、顔を粉だらけにして大奮闘。耳たぶくらいの硬さになったら、ビニール袋に入れて足で踏みます。ここは体重の重い人が大活躍。餅のように粘りが出てきたら、こぶし大にちぎって伸ばし、それを製麺機にかけると細長いうどんが出てきます。この瞬間は感動です。すぐに大鍋でゆでて出来上がり。天ぷらうどんやカレーうどんにして食べます。みんなで汗をかいて作ったうどんの味は最高です。

「福栄福祉フェア」は、毎年市の福祉バザーに寄付する物品を、日時を決めて集めていましたが、もっとみんなで楽しく参加できるようにしようと、福祉地区委員会の提案で４年前から始まりました。毎年11月23日に、寄付物品を持ち寄り、即売会を開き、売れた全額を寄付しています。また、模擬店を出して、その利益を全額寄付しています。昨年は、天ぷらうどん・そば、焼きそば、カレーライスを販売し、開店してから２時間も経たないうちに完売でした。盛況のうちに終わり、現金４万円と70点の物品を寄付することができました。

このように、みんなで楽しく町会の活動に取り組んでいます。

みんなでうどん作り